



ポータブルウィンチの操作実習

(特非) 若狭くらしに水舎

若狭地方における 地域住民による 山林管理の基盤整備事業

山林管理に必要な実習を行い、
新たな山林管理能力を有した
人間を増やす

46人

流通させる薪炭の
規格を決め、規格に合った
薪を製造する

7m³

活動の全体目標に
対する達成度

88%

課題

若狭地方における森林の適切な管理のため、住民による低コストかつ安全で効率的な山林施業を確立し、その過程で発生する木質資源を有効活用し、地域循環経済を確立する。

目標

地域住民に山林管理の技能・知識・安全管理の実習を行い、除伐材・間伐材を木質燃料として利活用できる整備・体制づくり、山林に対する意識調査、勉強会を実施し、住民主体による山林管理モデルを構築する。

活動内容

①地域住民を対象に、チェーンソーやポータブル集材機を使った軽負担の山林施業方法の実習を行い、山林管理のハードルを下げた。②間伐材・除伐材を加工して有効活用できるという道を示した。③薪の消費先として地域の温浴施設に薪ボイラーの導入を働きかけた。④山林資源の循環のため、当法人の施設を木質燃料の加工、集積の拠点として整備した。⑤山林管理に対する意識を変革し、積極的に山林資源のための勉強会を開催した。



電動・エンジン・斧、
様々な薪作り

達成できなかったこと

山主への管理に対する意識アンケートを30名からとる予定だったが、30名も山主を見つることができなかったり、山を知らない山主が多く、アンケート自体が実施できなかった。

今後の展望

山主との信頼を醸成し、機器の貸出しや木質資源の加工・販売方法を確立し、山林管理へのハードルを下げる。

入門助成

1年目

実践

成果と工夫した ポイント



成果

軽負担かつ安全な施業講習会には最終的に50名近い参加者を得ることができ、山林管理の道筋を示すことができた。また間伐材の薪への加工も参加者の積極的な行動により7m³を製造でき、今後の展開が見えてきた。

工夫

実習を行い、当初予定の内容では機械の操作実習が十分行えないことがわかり、2回目からは内容を変更した。